

追憶のアリラン

劇団きづがわ第73回公演

(劇フェス2016 / 大阪劇団協議会ラフェスティバル)

敗戦前後の朝鮮半島を舞台に、朝鮮民謡《アリラン》の調べに乗せて「日・韓」の国境を超えた友情のドラマ!



作・古川 健 / 演出・林田時夫

◇2016年12月23日(金) 11:00 & 16:00 / 24日(土) 14:00

◇リバティおおさかホール (大阪人権博物館) JR「芦原橋」徒歩8分

◇前売券 一般 3,000円 シニア (65才以上) 2,500円
U30 & 障害者 2,000円 夫婦(2人) 5,000円

(当日はいずれもお一人500円UPとなります)

追憶のアリラン

ものがたり

昭和二十八年、男が一人晩酌を傾けている。この物語の主人公・豊川千造である。妻の咲子が二本目の銃子を持って来たとき、朝鮮戦争の停戦を伝えるニュースが流れる。やがて千造は懐かしげに『アリラン』を口ずさむ。彼ら夫婦の脳裏に浮かぶ一人の男、かつての千造の部下であった朝鮮人事務官・朴忠男である。

そして舞台は、昭和十六年、千造が朝鮮総督府平壤府の地方法院検事局へ赴任した日、さらに、昭和二十一年、日本の敗戦前後の日々の回想へと変わってゆく……。

昭和二十一年八月。日本の敗戦が刻々と迫り、ソ連が対日参戦、風雲急を告げる朝鮮半島。解放に沸く朝鮮人民、慌ただしく逃げ帰国を急ぐ日本人たち……。権勢を振るってきた憲兵隊長も帰還列車に飛び込む。だが、総督府の公人たちは、人民裁判委員たちに帰国を阻まれる。四人の検事たちも深く踏み止まる。中垣、緒方、千造と、若い朝鮮生まれの川崎である。

そんななか千造の事務官・朴は、子供の高熱の為に列車に乗り遅れた千造の妻や子らを、三八度線を越え京城まで送り届ける役目を買って出る。やがて、検事たちの罪状を暴き、厳罰に処そうと燃えるソ連に亡命していた金や、抗日ゲリラで復讐に燃える李らの取り調べが始まる。そこへ、千造によって家族と財産のすべてが奪われたと訴える、崔親娘が現れる。だが、解放・光復に沸いた朝鮮半島も、米ソ二大帝国によって分断されることが露わとなってくる。

果たして、千造たち四人の検事たちの運命は……。朴忠男は、千造の妻・咲子や子らを、無事送り届けたのか？……。

この物語は、日本の植民地とされ、満州事変から日中戦争へと侵略の拠点となった朝鮮半島にあって、信義と良心を貫こうとした検事と朝鮮人事務官との、国境を超えた《友情》のドラマであり、歴史認識をめぐって対立する日韓の在り方を問うもの。6月の初演で好評を博し、より多くの人々に、再演に挑みます。

スタッフ

制作	池田 広美
効果	橋本 依子
照明	山村 八子
美術	椎名 千浪
演出	和島 雅子
監修	和田 雅子
大道具	三村 省三
照明	新田 三郎
効果	照島 佳宏
制作	和島 雅子

キャスト

豊川千造 (平壤府検事)	中屋 光雄
妻・咲子	林田 彩
中垣首席検事	小森 健司
緒方次席検事	中山 講一
川崎予備検事	坪井 正太
荒木大佐憲兵隊長	河原 正隆
朴忠男 (朝鮮人事務官)	河塚 俊哉
金公欽 (人民裁判委員)	山田 一己
李孝三 (人民裁判取調官)	寺島 由浩
任白龍 (看守)	島本 拓治
崔承化 (老人)	山本惣一郎
崔仁恵 (その娘)	橋野 悦子 (23金)
	西尾 純子 (24土)

(6月初演時の出演者たち)



アンケートの感想から

- ◎日韓・日朝両国民の相互理解と友好交流を築くために、何よりも日本人が学ぶべき歴史事実を本質的に浮かび上がらせた演劇として評価したいと思います。全出演者の熱演に拍手！ (渡辺 武さん)
- ◎舞台装置と転換がスムーズで、2時間を余る時間もアツという間。演技陣も磨きがかかって、アリランの歌もとても心に響きました。 (本田 睦子さん)
- ◎本当に良かったです。すばらしい内容になっている。人間の良心を考えさせられました。ありがとうございました。 (西 晃 さん)
- ◎きづがわのお芝居はいつも勉強になります。知らないことを教えて頂けるので……。皆様の熱演、感動しました。有難うございました。 (森田真理子さん)
- ◎歴史の中での真実が、こんな形で、分かり、すばらしい。セリフもはっきりと聞き取れて良かった。日本の侵略戦争と植民地支配は、両国の人間を、家族を苦しめた。平和と友好こそ！ (中田 進さん)

リバティおおさか略図

リバティおおさか (大阪人権博物館)
〒556-0026 大阪市浪速区浪速西 3-6-36
TEL:06(6561)5891